

評価対象課題の研究内容と評価結果（概要）

研 究 課 題	1 重要な絶滅危惧植物を存続させるための技術開発に関する研究（H29～R3）
研究目的・背景	絶滅の危険性が極めて高い植物、特に「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の指定を受けている絶滅危惧植物を対象に、自生個体を存続させるための手法と苗生産を行うための技術開発を行う。
研究内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自生地への調査及び周辺環境の状況確認、保護対策への取組、先導地の活動状況についての調査を行う。 ・種を存続させるための科学的な技術開発とその活用の評価を行う。 ・国、県、市町村等の依頼に対応した技術支援を行う。
評価結果	<p>○総合評価 A（6人）・B（0人）・C（0人）・D（1人）</p> <p>○総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな成果が出ていると評価できる一方で、これらの成果を普及するためには技術や知識を持つ人材を増やす必要があり、今後は普及の面にもご尽力頂きたい。 ・研究業績は原著論文にしっかりまとめられており、十分な研究成果を挙げていると認められる。 ・種子、組織培養など様々な手法により希少種の保全に取り組まれており、その実績は高く評価できる。 ・目標として設定した絶滅危惧植物2種について有効な維持・増殖技術を開発し、さらに希少植物の資源利用に関する研究でも成果を上げた。技術の普及を図るとともに、対象植物種の範囲を広げることで、岩手県の豊かな自然の存続に大きく貢献することが期待される。 ・大きな成果が得られている課題と思われる。本研究で得られた知見を他にも応用し絶滅危惧植物の保全に努めて欲しい。また、成果の移転、普及方法についてチョウセンキバナアツモリソウは秋田県にて保全されるということであるが、今後も協力関係を保ちつつ当該植物の保全に努めて欲しい。 ・野生種の育成方法を構築し、絶滅危惧植物の保護、存続という目標を達成したことは大きな成果と感じました。今後、これら成果の現場普及と他の絶滅危惧種への応用を期待します。
センターの対応方針	<p>I 研究成果は目標を十分達成した</p> <p>II 研究成果は目標をほぼ達成した</p> <p>III 研究成果は目標をかなり下回った</p> <p>IV 研究成果は目標を大幅に下回った</p> <p>V 研究成果がなかった</p> <p>本研究は、岩手県のみでなく国内においても絶滅の危機にある貴重な野生植物の保護を目的として行った研究であり、高度かつ厳しい状況の中で研究を進め、最終的に保護が進められ、論文発表を行い、成果は十分に達成していると考えます。</p>

	今後は、この研究の成果を活かし、他の希少植物種への保護技術の開発に寄与したい。
--	---

※ 記載欄は適宜調整（拡張）してください。